平成30年度　佐賀県立伊万里商業高等学校（定時制課程）　学校評価結果

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
生徒一人ひとりの「生きる力・生き抜く力」を育み、経済社会の変化に十分に対応しうる、社会人・商業人としての資質（知識・技能）を身につけさせ、社会に貢献できる心身ともに健全な生徒の育成を目指す。	《創造そして進化》をスローガンとして、10年後、20年後の生徒たちの姿を想像し、社会貢献ができる人間性豊かな生徒の育成を目指す。 ①　集団生活の中で、他人を認め、協調して活動する心を醸成する。 ②　基礎学力の向上に努め、思考力・判断力・表現力を磨き、進路実現100％を目指す。 ③　保護者や地域へ情報を公開し、連携を密にすることにより、地域に信頼される、魅力ある学校づくりに努める。 ④　部活動や資格取得において、目標に向かって努力し、成し遂げることの充実感、成功体験を通じて、将来の自分に夢と希望を持てる生徒を育てる。 ⑤　新しいものを創造し、変化していく社会を牽引できる人材を育成し、来るべき社会の構築に積極的に 加担できる生徒を育成する。

達成度　A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

3　目標・評価

①　集団生活の中で、他人を認め、協調して活動する心を醸成する。

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○ボランティア精神の育成	豊かな心の育成と社会貢献	・年１回以上、学校周辺の清掃活動を実施し、ボランティア精神を涵養する。 ・年１回以上、ＮＰＯ法人動物愛護団体への物資提供を行う。	・伊万里市環境課と連携をとり、伊万里市がさらに住みよい温かい町になるよう地域社会貢献に努める。 ・生徒を通じて保護者および雇用主等へ文書を発送し、物資提供に協力をいただけるように呼びかける。	B	・毎年10月に実施しているボランティア清掃活動は、今年度は天候不良で実施できず、校舎内の掃除を行った。普段授業で使用している特別教室を中心に、なかなか目が届かない個所まで念入りに行った。 ・物資提供については、呼びかけが足りずあまり集まらなかった。	・天候不良で清掃活動ができない場合は、別日での実施を検討していきたい。 ・環境美化を呼びかけるとともに、机および教室内の整理整頓を徹底させる。 ・物資提供に関する文書及びチラシの配布ができなかった。来年度は生徒を通じて保護者及び就業先等に物資提供について協力を呼びかけていきたい。
	●いじめ問題への対応	生徒実態把握の推進	・生徒の人間関係や精神状況を十分に把握し、いじめの発生を未然に防ぐ。 ・いじめが発生した際の対応を迅速に行う。	・いじめアンケートを実施し、いじめの萌芽と思われる状況を見逃さず迅速に対応する。 ・全職員が生徒の現況を把握できるよう、情報交換を密にする。 ・保護者との連携により、家庭での状況にも十分な注意を払う。	B	・いじめアンケートの回答内容をすぐに確認し、即応できる体制を整えた。 ・本年度におけるいじめは、覚知・認知ともに0件であった。 ・職員間で生徒情報の共有を図り、いじめの原因になり得る状況に対応することができた。	・生徒情報交換会において、生徒同士の人間関係について詳しく情報を共有できるようにする。 ・携帯電話・スマートフォン、SNSなどの利用に関するモラル・マナー教育の充実を図る。
	●心の教育	教育相談体制の充実	・年2回、教育相談週間を設け、生徒と教職員の信頼関係作りを図る。 ・年2回以上、スクールカウンセラーが参加する職員連絡会の機会を作る。	・教育相談週間前に「生活に関するアンケート」を実施し、面談時の 生徒理解資料として担任へ情報提供を行い、効果的な教育相談の実施を図る。 ・教務と協力して職員連絡会にスクールカウンセラーが参加する機会を確保し、職員とスクールカウンセラーの連携作りに努める。	B	・年2回、「生活に関するアンケート調査」及び教育相談期間を設け、生徒の実態把握と、相談体制づくりを図った。 ・スクールカウンセラーの活用については、新入生対象に短時間の面接を計画し、1年生全員が面接を受けることができた。早期の生徒理解につなげるとともに、生徒が抵抗なく相談できる基盤づくりができた。	・スクールカウンセラーの来校日と職員会議の日程調整を行い、職員連絡会にスクールカウンセラーが参加する機会を年に数回は確保して情報交換や助言を得るようにする。 ・スクールカウンセラーの面談については、来年度も新入生を対象に面接の機会を設け、生徒理解に繋げていきたい。
		心の健康づくり	・年1回以上、生徒理解のための職員研修を実施する。 ・教育相談についての情報発信に努める。	・スクールカウンセラーと連携し、職員研修の機会を設ける。 ・日報や「ほけんだより」で、スクールカウンセラー来校日や教育相談についての情報を発信する。	B	・本校担当のスクールカウンセラーを講師として夏休みに職員研修を行い、心の健康課題について共通理解ができた。 ・スクールカウンセラーの利用については、職員が生徒についての相談を定期的に行い、専門的な指導助言を受けることができた。	・日頃より、スクールカウンセラーとの連携を図るとともに、今後も職員研修の機会を設け教育相談活動の充実を図っていく必要がある。 ・スクールカウンセラーの来校日等の情報については「保健便り」だけでなく、ホームページに掲載するようにしていきたい。

②　基礎学力の向上に努め、思考力・判断力・表現力を磨き、進路実現100％を目指す。

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	学び直しと家庭学習の充実	・授業では、中学校での学習内容の復習や基礎的内容を中心に、生徒が授業に関心を持って取り組めるようにする。 ・学習の遅れや苦手意識を克服するために、基礎基本を丁寧に指導し、状況に応じて個別指導を行う。	・学校行事を精選し、授業時数を確保する。 ・生徒の理解度に応じた教材や指導方法を工夫する。 ・基礎学力を高めるため、基礎基本を重視した指導を行い、同時に基礎学力テストを実施して生徒の学習に対する意識向上を図る。	B	・授業時数については、すべての科目で規定時数の80%を超えた。 ・各教科担当者で教材や指導法に様々な工夫をしてはいるものの、学習意欲を向上させるまでには至っていない。 ・基礎学力テストに対する生徒の意識を高め、テスト勉強をして受けるという姿勢を育てる。	・昨年度から開講式や閉講式の日にも授業を実施するようにしたが次年度以降も継続していく。 ・落ち着いて授業を受ける雰囲気を醸成し、学びの大切さを認識させる。。 ・基礎学力アップテストを定期考査の範囲で利用したり、成績に入れたりして、生徒に勉強しなければという気持ちを持たせる。
		専門教科指導の充実	・指導方法の創意工夫により、「できる（自信をつける）授業」を展開する。 ・各種検定資格試験の合格率を９０％以上にする。	・ティームティーチングによる個別指導をする。 ・基本練習を確実に行う。 ・達成度を確認させ、目標を明確にしていく。	B	・ティームティーチングの指導により、生徒への指導を十分に行うことができた。 ・日本情報処理検定協会主催の検定では、ほぼ7割程度の合格と目標の9割を達成できなかった。特に1級の合格者が予想を下回った。合格経験は達成感を育み次の目標に対して意欲的に取り組むことができた。	・日本情報処理検定協会主催の検定合格が学習意欲の向上につながっているので、引き続き指導を行っていきたい。 ・日商簿記検定の内容が高度になってきているので、全商簿記検定にシフトしていくことを検討していきたい。
	◎教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	学習効果を高めるICTの利活用	・生徒の理解度に応じた教材や指導方法を工夫する。 ・ICT機器の活用により、生徒の学習に取り組む意識を高める。	・学校行事を精選し、授業時数を確保する。 ・授業への興味・関心を高めるため、学習コンテンツ配信サービスやデジタル教科書、オンライン教材などを活用する。 ・学習用パソコンや電子黒板で利用できる教材を作成し、授業に活用する。	B	・授業時数については、ほとんどの科目で規定時数の80%を超えた。(2/5時点) ・教師側がICT機器に慣れたこともあり、生徒を指導する時間を多く取れるようになっている。 ・学校生活の様々な場面でICT機器を活用する場面が増え、視覚的に訴えかける指導ができるようになっている。	・授業の様々な場面でICT機器が活用されてはいるが、依然としてあまり活用されていない授業もある。センター等での研修への積極的な参加を呼び掛けるとともに、新たな場面でのICT機器の活用の場面を考えていきたい。
	○進路指導	希望進路の実現	・卒業予定者の進路決定率を100％にする。	・年8回基礎学力アップテストを実施して、基礎学力の向上を図る。 ・就労体験を通し、社会性を身に付けさせる。 ・全日制進路指導部および、ハローワークと連携し、進路情報を収集して、生徒に提供する。	B	・基礎学力アップテストは、一部の生徒に学習に取組む意欲がみられなかった。 ・アルバイトの経験者は長期短期を含めて26名中23名で88.5%の就労率であった。全日制の進路指導部及びハローワークと連携して、生徒の進路指導にあたることができた。	・基礎学力アップテストについては、生徒の意欲を高める働きかけを検討したい。 ・進路指導にあたっては、今年度同様、全日の進路指導部及びハローワークと連携をとりながら進めていきたい。
学校運営	◎教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	情報活用能力の育成	・各教科科目の授業において、ICTの利活用を推進する。 ・ICTを利活用した授業に関する校内職員研修を実施する。	・各教科科目の授業において、学習用パソコンを活用した個別学習を推進する。 ・学習用パソコンと電子黒板を連携させた協働的な学びを推進する。	B	・授業評価アンケートで、「先生は、ノート、プリント、電子黒板、学習用パソコンなどを活用し、工夫した授業を行っていますか」の問いに対し、89%の生徒が肯定的な回答をしている。	・来年度も学習用パソコンを活用した授業を推進し、高度情報化社会で生きるために必要な情報活用能力の育成を図っていきたい。
	○教職員の資質向上	授業改善	・「わかりやすい授業」を目指し、授業内容の精選と授業の進め方などを生徒の実態に合わせて常に見直していく。 ・生徒が授業に関心を持って取り組み、学習することに自信が持てるように指導する。	・年2回、生徒による授業評価を実施して、授業の改善につなげる。 ・理解度を確認するために、学習用パソコンを利用したアンケートなどを実施する。	B	・今年度から授業評価アンケートを年1回の実施とした。アンケート結果を担当者にフィードバックし、生徒の授業の理解度に合わせて、授業内容や進め方などの見直しを行っていただいた。	・来年度も年1回の授業評価アンケートを実施し、授業の改善や教科指導力の向上につなげていきたい。また、お互いの授業を参観することで、教科指導力の向上を図っていきたい。

③ 保護者や地域へ情報を公開し、連携を密にすることにより、地域に信頼される、魅力ある学校づくりに努める。							
領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営方針	本年度の重点目標の周知	・教職員・生徒・保護者に周知し、認知率80％以上を目指す。	・職員へは、職員会議、職員連絡会等で周知を図る。 ・生徒へは、集会やHR活動において周知を図る。 ・保護者へは、後援会総会や個人面談で説明し、学校だよりやホームページ等で取組状況を報告する。	B	・学校評価アンケートの結果、学校の教育方針や本年度の重点目標の認知率は71％であった。昨年度(46%)より向上しているが、まだまだ認知率が低い。授業やホームルーム活動、学校行事、後援会総会などで伝えていきたい。	・生徒には、授業やホームルーム活動、全校集会時など、あらゆる場面で周知を図る。保護者には、後援会総会、三者面談、学校ホームページなどで周知を図る。また、職員に対しても職員会議等で確認する。
		本校教育活動への理解と啓発	・生徒、保護者、学校評議員等へ学校情報を発信する。 ・地域の中学校（生徒・保護者・職員）へ学校情報を発信する。 ・保護者への学校行事の連絡を徹底し、後援会総会の保護者出席率を５０%に近づける。	・学校だよりを発行し、ホームページの更新を行う。 ・一日体験入学を実施する。 ・中学生や保護者、中学校教員を対象とした公開授業を実施する。 ・保護者宛の文書が確実に届くようスクールNEWSメールを活用する。	B	・学校評価アンケートの結果、保護者や地域への情報発信は、94%が肯定的な評価であった。後援会総会の出席率は32%で、昨年度(42%)%より低下した。保護者へ連絡を徹底し、後援会総会などの学校行事への参加を呼びかけていきたい。	・保護者宛ての文書が確実に届くようにスクールNEWSメールを活用する。学校ホームページを利用し、学校情報を積極的に発信していく。 ・公開授業と食育講座は好評なので、来年度も実施し、本校定時制について情報発信をしていきたい。

④ 部活動や資格取得において、目標に向かって努力し、成し遂げることの充実感、成功体験を通じて、将来の自分に夢と希望を持てる生徒を育てる。							
領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	業務評価表を活用した職員の指導力向上	・学校の重点目標を踏まえた目標を設定する。 ・業務評価表に掲げた具体的目標の自己評価を、全職員が「３」以上にする。 ・自己の指導力向上が生徒の育成に着実に結びついているという意識を高める。	・自己目標と達成状況を自己点検する機会を設ける。 ・自己の目標達成が生徒の育成に貢献しているかどうかという視点をもつ。 ・部活動の期間は全職員で指導に当たり、生徒の参加意欲を高める。 ・資格試験を指導する際は、担当者間で指導法について情報を共有し、指導力向上を図る。	B	・定通制体育大会の前は、全職員で部活動の指導にあたり、卓球団体で優勝した女子3名と陸上部の男子1名が全国高等学校定通制体育大会に出場することができた。 ・日本情報処理検定協会主催の各種検定試験で、5種目1級取得者が1名、4種目1級取得者が3名、3種目1級取得者が2名と良好な成績を収めた。	・教職員の自己目標については、今年度の課題を踏まえて目標を設定させる。 ・部活動指導や生活指導は、今後も全職員で取り組んでいきたい。 ・来年度も引き続き、資格試験の指導方法については教員間で情報を共有し、各種検定試験で合格できるよう粘り強く指導を行っていきたい。
教育活動	○進路指導	特性に応じた指導	・生徒の特性を理解して、長所を伸ばす環境づくり、指導を行ない、進路目標達成につなげていく。	・生徒の学校生活の様子を職員連絡会等で情報交換し、共通理解を図る。 ・部活動の期間中には、集団の中でのリーダー性や協調性などの特質を見い出し、その個性を発揮させる環境づくりに努める。	B	・職員間で常に情報を交換し、発達障害及び特性のある生徒は、保護者や専門機関と連携をとりながら、適正な学習環境づくり、進路指導を行った。 ・部活動及び学校行事などを通して生徒の個性などをつかむことができ、生徒の進路指導に役立てることができた。	・次年度も職員連絡会で生徒についての情報を職員間で共有することにより、生徒の特性にあった進路指導を行っていきたい。

⑤ 新しいものを創造し、変化していく社会を牽引できる人材を育成し、来るべき社会の構築に積極的に加担できる生徒を育成する。							
領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○学校の個性化	就労による勤労観の育成	・社会的な自立を目指して、就労への意識を高める。 ・就労率を80％以上にする。	・生徒向けの年金、労働関係法規に関する講義を行い、社会的な自立の基本を育てる。 ・未就労生徒に就労先を紹介する。 ・生徒の就労先を訪問し、就労状況を把握して、職場への定着を図る。	A	・生徒は、年金に関する出前授業を受け、年金に関する知識を広めた。 ・就労率は短期長期あわせて、85.5%であった。	・隔年で、労働法規と年金に関する講義を3, 4年生に受けさせていることで、生徒の進路意識が高まった。今後とも継続して行いたい。 ・就労率は伸びているので、継続して職場定着等の指導を行っていきたい。
		進路指導体制の充実	・進路実現のための学力、知識および資格を身に付けることができるように指導・支援を行い、学習や資格取得に向けた生徒の意欲を高める。 ・不登校経験者および発達障害の生徒が、社会に適応できる力を養う環境づくりに努める。	・生徒情報の共有により、あらゆる教育活動を通して、全職員が協力した指導体制をつくる。 ・不登校経験者および発達障害の生徒の特性・特徴を理解して、必要なサポート体制をつくる。 ・少人数クラスの特性を生かし、個に応じた指導・支援を行う。	A	・夏季休業中に生徒のアルバイト先の職場訪問を行い、職場での様子を知ることができ、生徒の個性を把握することができた。。 ・不登校、発達障害の生徒に関しては、保護者、専門機関と連携をとりながら、支援体制づくりに努めた。 ・個に応じた指導、支援を実践してきた。	・次年度も引き続き、夏季休業中に生徒のアルバイト先の職場訪問を行い、生徒の個性を把握するとともに、個に応じた指導・支援を実践していきたい。 ・特別支援コーディネーター、スクールカウンセラーとも連携を密にし、生徒の成長に必要な環境づくり、指導体制を模索していきたい。
	○基本的習慣の確立	社会的マナーの習得	・挨拶を励行する。（来客や職員に対して生徒全員がきちんと挨拶ができることを目指す。） ・場にふさわしい言動ができるように指導する。	・授業や集会等、あらゆる機会を捉えて、挨拶等のマナー指導を行う。 ・職員間でも挨拶や適切な言葉遣いを心掛け、率先垂範する。	B	・ほとんどの生徒が、適切な言葉遣いと挨拶ができるようになった。 ・社会人としてのマナーについてもしっかりと指導していく必要がある。	・言葉遣いや挨拶について、服装の指導と合わせて指導する。 ・職員室の入室時や授業等を通して実践的に取り組み、更に改善を図っていきたい。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目							
領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体つくり	望ましい食習慣の形成	・給食の喫食率75％以上を目標とする。 ・食事と健康の関わりの意識を高める。	・喫食調査を毎日実施し、年間の喫食率が100％の生徒には「健食賞」を授与する。 ・給食室に来ても、食べない生徒もいるので、講話を通して食事の大切さや食に関する興味関心を高める。また、魅力ある献立の工夫をする。 ・面談を行い、食べ物の嗜好や朝昼夜の喫食状況や食事内容、食物アレルギーの有無などの情報を収集するとともに、規則正しい食事の大切さを認識させる。 ・「給食だより」を毎月発行し、生徒の自立を支援するために食事のマナーや食に関する意識を高めるとともに、保護者との連携を図る。 ・地場産物や旬の食材を使用したり、郷土料理を紹介する。	B	・喫食率は4月当初は48%であった。その後は、63%以上を維持している。学校全体で食育指導を行ったのが功を奏している。 ・「給食だより」は毎月発行し、旬の食材や行事、食材の栄養価など食に関する情報を発信した。 ・行事食や毎月のセレクト給食、バイキング給食などを実施し、選択する楽しさを感じさせ、食べることへの意欲を持たせることができた。 ・生徒自らが栄養バランスを考え、食品を選択する力を養った。 ・今後も魅力的で心に残る給食とし、食事への興味・関心を高めるために、献立に工夫を行っていきたい。	・生活習慣病予防など健康管理のための食事の大切さや給食の重要性を理解させ、通年で喫食率を70%以上を維持できるように指導を進めていく。また、多くの生徒が食べに来るような魅力ある給食になるよう献立内容の工夫をする。 ・次年度も「給食だより」を毎月発行し、保護者との連携を図る。 ・食育アンケートを実施し、食生活改善のための指導を継続して行い、望ましい食習慣を身につけさせる。 ・給食時間の（声かけ等）食に関する指導を継続的に行い、食に興味・関心をもたせる。 ・全職員との連携・共通理解のもと喫食率向上に取り組んでいきたい。
		健康管理能力の向上	・健康に関心を持たせ、健康管理に対する意識を高めさせる。 ・保健室の利用率（一人当たりの年間平均利用回数）7.0未満を目標とする。 ・歯科保健の充実に努め、DMFT指数（一人当たりの歯のう歯率）「2.00」未満を目標とする。	・出席状況や健康観察から問題を抱える生徒を早期に把握する。面談に努め、心身の健康管理能力を高める支援を行う。 ・保健室を利用する生徒で、心身の健康問題等で管理を要する生徒の早期発見に努め、関係職員や保護者との連携を図る。 ・給食後の歯磨き指導を徹底し、学校歯科医と連携を図り、歯科保健講話を実施する。	B	・一人当たりの保健室年間利用回数は5.9回（1月まで）で、担任や教科担当者等、全職員と連携して、様々な課題を抱える生徒に真摯に向き合った。 ・今年のDMFT指数は「1.42」で、目標値は達成しているが、校医による歯科講話の日程調整ができず実施できなかった。個別の保健指導については、う歯未処置者を対象に、プリントを配布して説明し個別指導を行った。受診者が昨年より若干増えた。	・感染症などの体調不良者や心身の問題を抱える生徒を早期発見するために、出席状況や健康観察を全職員で行い、情報共有に努める。 ・健康課題を抱えた生徒たちに対し、個々に応じた保健指導を行うことが重要であるので、全体指導と個別指導を計画的に行っていきたい。 ・感染症対策については、流行期に感染症情報センターからの最新情報を発信し、感染症の予防を呼び掛ける。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務改善のための工夫と働き方改革推進	・業務改善のための工夫として、校内LAN、SEI-Netをさらに有効活用する。	・資料のやりとり、職員間の連絡、統計や文書などを、校務用サーバに保存し、情報の共有化を図る。 ・SEI-Netを利用した出席統計、成績処理、指導要録の作成を行い、業務の効率化を図る。	B	・校内LANやSEI-Netについては、有効に運用できるようになっている。SEI-Netを活用して成績処理、出席統計、指導要録を行っており、業務の効率化が図られた。	・校内LANやSEI-Netの活用により、業務の効率化が進み、職員の負担軽減につながっている。来年度も、今年度以上に業務の効率化を進め、時間外勤務の減少につなげていきたい。

4 本年度のまとめ・次年度の取り組み
今年度は、《創造そして進化》をスローガンとして、10年後、20年後の生徒たちの姿を想像し、社会貢献ができる人間性豊かな生徒の育成を目指し、全職員で生徒の学習面や生活面などの指導を行った。生徒たちが社会人として働くためには、制服の着こなしや挨拶など、当たり前のことが当たり前にできることが必要となるので、今年度も登校時の服装・頭髪指導を生徒指導部を中心として毎日行った。また、職員室入室時の挨拶、適切な言葉遣いを身に付けさせる指導も行った。このように、職員が一丸となって粘り強く指導したので、生活面については、多くの生徒に改善が見られた。 学習面においては、基礎学力を高めるために、基礎基本を重視した指導を行った。また、基礎学力アップテストを年8回実施し、生徒の学習に対する意識の向上を図った。今年度も生徒による教員の授業評価アンケートを9月に実施し、授業内容や進度など、生徒の実態に合わせてもらった。来年度も授業評価アンケートを行い、わかる授業の実践へと結び付け、生徒一人ひとりの学習要求に応えていきたい。今後も職員が一丸となり、活力と希望に満ちた修学と夢作りの場を目指し、創意工夫を凝らした特色ある学校づくりを行っていきたい。

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目